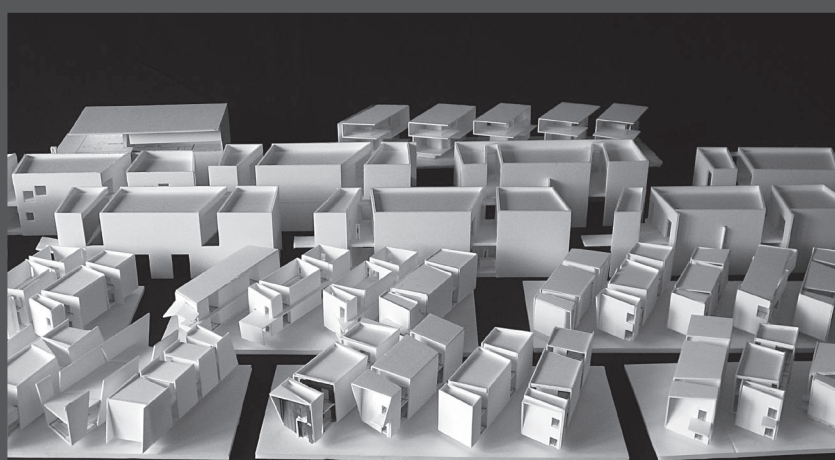


長引く基本設計。 案も自分も 鍛えられる



松岡恭子さんの
1か月

スピングラス・アーキテツツ
(福岡市中央区)

まつおか・きょうこ

1964年生まれ。コロンビア大学
大学院修了。スピングラス・アー
キテツツ主宰、東京電機大学准
教授



基本設計中!

F社レセプション ハウス

(福岡県)

製作機械会社の工場横につくる、レセプション棟。
さまざまな国から、いろいろなものを製作する機
械を依頼され、設計から製作、現地設置まで行う
会社。クライアントを迎えるミーティングルームや
ラウンジ、また社員のためのランチルームや集会
室などを含む施設となる。

12月8日(月)

■社長の要望で再び変更。夜は県文化賞受賞パーティー

半年以上基本設計をやっている。平屋案、2層案、3層案とスタディを重ね、ようやく案も固まってきた。が、社長室の場所を変えたいという連絡が入り、プラン練り直し。粘り強く向き合うことで案が強くなると自分に言い聞かせる。今夜は9月に頂いた福岡県文化賞の受賞パーティー。過去の建築主、私と仕事をしてくれた建築と土木のエンジニア、建築家仲間が集ってくださった。F社社長もご参加。途中、過去の主なプロジェクトをパワーポイントで紹介。皆さん真剣にそして好意的に聞いてくださってうれしかった。

12月26日(金)

■プロジェクトと対話を続ける。年内最後のプレゼン終了

年内最後の建築主プレゼン。出張続きで図面をじっくりチェックできなかったが、数日前にやっと事務所で短いミーティング。スタッフを前に独り言を言いながら、案を練る。前案ではなんとなく納得できていなかった、長い廊下と途中に3ヵ所ある光溜まりのよりよい関係が急に見えてくる。プロジェクトは進むにつれて意志を持ち始める。言うことを聞かない時もある。けれど対話を続けていると突然、「こうすれば?」と道を開いてくれる時もある。そういう瞬間が一番楽しい。プレゼン無事終了。建築主の返答は年明けに。

〈今月の格言〉 粘り強さはプロジェクトを強くする

本来気が長いほうとは言えないが、新北九州空港連絡橋に13年携わったお陰で、粘り強くなったと思う。異なる仕組みや考え方が相容れない中で、投げ出さずに本質を求め続け、その説明をあきらめないことが、結果、評価されるプロジェクトの完成につながったことを竣工から3年経って実感している。F社のプロジェクトも建築主の要望の変化と向き合う中で基本設計がなかなか完了せず苦しいのだが、膨大なスタディを振り返ってみると最新の案が一番良いと思える。簡単に案が通らず、したがって粘り強く向き合うことで、プロジェクトの足腰が、筋力がしっかりしてくると痛感する。

Bridging

松岡恭子展



12月10日～12月20日
「Bridging 松岡恭子展」開催

福岡では初めての展覧会。さまざまな分野を「つなぐ、超える、乗り越える」という意味を託し、タイトルは「Bridging」。建築を中心に、橋や道路の土木構造物、テーブルなどのプロダクトデザイン、海外でのプロジェクトを展示。また建築家としての私の活動も紹介。

事務所の特徴

何が特徴だろうか。事務所名に私の個人名を使っていないことか? 今年は日本最大台数を誇る路線バスのデザイン刷新も手掛け、とうとう「動くもの」までやってしまった。新北九州空港連絡橋をこのバスが走る日が待ち遠しい。